

SCHOOL LIFE 1月

CSとして→避難訓練

1月9日、地震と火災を想定した避難訓練を実施しました。1学期の避難訓練で、**出水消防署の方々の指導**を受けながら、大川内で大規模災害発生時、中学生ができることを考えるワークショップ型の学習をしました。今回は、まず自分の身を守る安全な避難を再確認したあと、ワークショップ型の学習の一部を模擬実践しました。学習の流れは下記のとおりですが、「**独居敬老宅安否確認班**」と「**炊き出し班**」の2班に分かれ、**馬流自治会の井手上会長さんと福浜班長さんのご協力もいただきました**。「**独居敬老宅安否確認班**」の訓練では、住人の方が日頃使用している薬や家族の連絡先が入っている「**命のカプセル**」というものが冷蔵庫にあることや学校の近くにも歩行の困難な方がいらっしゃることを、「**炊き出し班**」の訓練では、ビニール袋に米と同量の水を入れ、鍋で30分程で炊けることなどを確認できました。自分たちの行動の振り返りと課題等の発表をしたあと、消防署の方から講話をしていただきました。講話は実体験をもとに、具体的に話してくださり、まず大切なことは自分の身を守ること、自分が傷害を負うことは他人に迷惑をかけることだということを教えてくださいました。そして、中学生が災害時にできることの一つには、元気な体を使った情報収集とのことでした。コミュニティ・スクールとして、地域の安全・安心創りを地域の方々と共にこれからも考え、実践していけたらと思います。

訓練の概要

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 地震発生 → 一次避難 | 2 火災発生 → 二次避難及び訓練通報 |
| 3 避難及び人員点呼 | 4 その場で班編制（事前の班分けなし、職員も） |
| 5 班別に訓練 | 6 訓練の振り返りと課題の発表 |
| 7 消防署の方による講評・講話 | 8 炊き出しおにぎりの全員での試食 |

地域避難所へ二次避難



避難完了



自治会長・班長さんと共に班分け



独居敬老宅安否確認班



命のカプセルの確認



炊き出し班



ビニール袋と鍋で炊飯



振り返り




振り返り



課題
 事前に入火しているかの確認。
 リストや地図を作成する
 出火すると近所の人に伝えてもらう
 呼びかける
 ・リカー等の運搬器具の準備
 ・確認済れを知らせるための目印となる
 シールやマーカーを準備し、確認し家の
 玄関にはおく

反省
 ・お米の水の量が多かった。(お米の量が多)
 ・沸騰するまでは、なべのふたをあげない。
 ・役割分担が早くできず、かたよりがあった。

課題
 ・なべに入れる袋は、13~15個が良。
 ・作り終わ、そこから戻った。
 ・私語が多かった。



反省 意識が低かった。
 ・指示を待っていた。
 ・米をこぼしてしまった。
 ・主体的に行動できなかった。
 ・実際の災害時に想定
 し取り組めなかった
 ・緊急時の米の炊き方を
 知ることができた。

課題
 ・リーダーを決める
 ・ざるを用意
 ・災害・緊急時
 への意識を
 高める

反省
 ・お米の水が少なくて
 月巻するの時間がかか
 ったので、お米がたき上がるの
 と時間がかかった。
 ・袋である、昨日の昼食を出して
 ・お米の半分以下、水を入れる。

言葉
 ・お米を洗う時に、お米を
 こぼさないように気を付けた

反省
 ・安全確認ができた。
 ・どこに何かがあるか、確認でき
 なかった。
 ・素早く行動できた。

課題
 ・(人暮らしの所などがわかる
 地図があればよかった
 ・トランシーバー、AED
 タンカ等の救護道具
 ・常に大人の人と!!

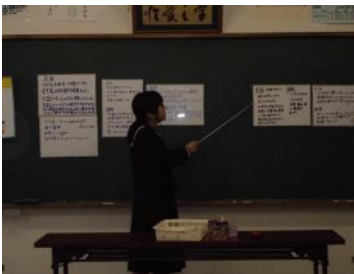
反省
 ・みんな真面目に行動できた。
 ・空き家の把握が出来なかった。
 ・序盤は大人の力に頼ってしまった。
 災害はいつでもどこで起きるかわからない
 ので、知識は校生も地域への事前把握
 しておく事がとても重要だと気が付いた。

耳の遠い方への話しかけ方
 ・道の整備
 ・荷物人 → リカー
 ・お米用具 → スパ、ロープ、チェーン

課題発表



課題発表



講評・講話



試食



指導者の方々も試食



お礼のあいさつ



CSとして→大中カレンダー配布

12月22日、生徒の俳句作品や挿絵を挿入した平成30年版大中カレンダー450部を、学芸部が中心となり作成し、地域の全家庭と主な事業所へ配布しました。昼休みや放課後の作業で大変でしたが、生徒全員で協力して完成させました。良い年にしていきたいと思います。



地区コミュ協事務局へ



JA 大川内事業所へ



大川内郵便局へ

道徳科研究授業

内容項目

C 主として集団や社会との関わりに関すること

(16) 郷土の伝統と文化の尊重 郷土を愛する態度

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

1月11日、道徳科の研究授業を3年生で実施しました。これまでの行事を振り返り、地域の方々がどれだけ大川内中のために尽くしてくださっているか、私たちは地域のために何ができているか、それを改めて考える授業でした。なぜ、地域の方々は、自主的にこれ程までに学校に尽くしてくださるのでしょうか。郷土愛、10年後20年後30年後・・・に、真の答えがわかり、実践もできていることでしょう。

生徒の感想

道徳で地域の方との関わりについて学びました。改めて地域の方の支えや有難みを感じました。地域の方が自分たちにしてくださることは本当にたくさんあるなあと思ったので、私も行事やボランティアなどの活動を通して、地域に少しでも貢献できるといいと思いました。



若い日

偏見や差別をなくす

大川内中3年

塩入 裕也

人権について改めて深く考えた。やはり「人間らしく生きる権利」だと思う。ちゃんとした教育を受ける権利、ちゃんとした食料を得る権利など、例を挙げたらきりがないほどたくさんある。

僕たちには不完全なところがあると思う。それはどんな人も受け入れることができる、広い心と優しさ」があるかどうかということだ。もちろん、この世の中にはいろいろな人がいて、好意を抱けない人もいます



永山 純聖

(指宿市)

思う。だから全ての人を受け入れるなんて不可能で、きれいなことにすぎないのかもしれない。

しかし、長い人生の中で、さまざまな人と出会い、いろいろな立場や意見、考え方や捉え方を学び「自分と

この世に生きている全ての人と、そして全ての人が不自由なく生きていく権利」がある。それを脅かす偏見や差別が消えること

「生きる」

様々な学習・経験を基に、価値理解・人間理解・他者理解を通して自己理解を深め、真の相互人権尊重社会の実現を目指して生きる。

豊かな人生
豊かな社会

受験生激励会

大試験山の如くに控へたり
高浜虚子



CSとして⇒自分の手漉き和紙で 新春書初め会

1月18日、学校運営協議会委員の矢野さんと、さわやか出水女性の集いの渋谷さん、藤竹さん3名を講師にお招きし、体育館を会場に全校生徒で実施しました。

今年の紙漉学習は、平成15年から全工程を指導していただいた故出口様の技術と心の継承という大きな課題がありましたが、学校運営協議会、大川内地区コミュニティ協議会（人づくり部会 会長 恒松さん他）、そして、鶴田和紙の後継者である野元さんの指導・支援により漉きまでたどり着くことができました。生徒も、昨年作った紙漉学習課題編の冊子をもとに、例年以上に集中して、真剣に学習に取り組みました。

そんな色々な方々の心がこもった自分で漉いた和紙に、今年の一文字を書き上げました。すばらしい年にしていきます。



今年も頑張るぞ！



CSとして→技術分野「材料と加工に関する技術」支援授業



1月16日、大川内で木材加工・室内装飾の誠光舎を運営されている戸川さんに、1年生の技術分野の授業をしていただきました。生徒が日常生活で必要としたり、こんなものがあつたらいいなと思うものを製作していきますが、まず、その設計を指導していただきました。木材の特性を知り尽くした戸川さんの指導は、美、強度そして実用性も兼ね備えています。2年生の職場体験学習でも指導していただき、今回は完成まで定期的に授業支援をしてくださるとのことです。日本力のトップに君臨する匠の技（2004年日本工業新聞アンケート調査結果）の継承が少しでもできたらと思います。

CSとして → 武道(剣道)支援授業

1月19日、大川内地区体育協会及び地区コミュニティ協議会の事務局長である今村さんに、剣道の支援授業をしていただきました。今村さんが中学生の頃は、生徒数が400人で、剣道部も強豪だったそうです。現在、生徒数は31人ですが、特認校生としての転入が多く、3年生でも初めて竹刀を持つ生徒が多いです。そこで、少しでも生徒の力になればと、支援を快諾していただき、今回は初めての授業でした。武道の所作や基本動作をもとに、日本人としての心身を確立していきたいと思います。

